

「とうもろこし（サイレージ用）「DKC34-20（SH3481）」 （普及奨励事項）

北海道農業研究センター寒地飼料作物育種研究チーム

北海道立上川農業試験場研究部畑作園芸科

北海道立畜産試験場環境草地部草地飼料科

北海道立十勝農業試験場作物研究部畑作園芸科

北海道立道南農業試験場研究部作物科

執筆担当者 濃沼 圭一

「DKC34-20（SH3481）」は“中生の中”に属し、同熟期の標準品種「おおぞら」と比較して次のような特性をもち、対象地域での安定栽培が可能である。絹糸抽出期は2～3日早い雄穂開花期は1日遅く、収穫時の熟度および乾物率は並である。耐倒伏性は同程度だが折損が少ない。すす紋病抵抗性およびごま葉枯病抵抗性は強く、いずれも「キタユタカ」より強い。発芽期は並で初期生育は並かやや劣る。乾物総重および推定TDN収量は並で、乾雌穂重割合はやや高い。

1 来歴等

フランスのモンサント社が育成した単交雑（デント×デント、構成系統は不明）の一代雑種で、平成14年に雪印種苗株式会社が導入した。平成16年にOECD登録されている。

2 特性概要

(1) 熟 期

絹糸抽出期は「TH9861」より1日遅く「おおぞら」より2～3日早い。雄穂開花期は「TH9861」より3～4日遅く「おおぞら」より1日遅い。収穫時の熟度は「TH9861」よりやや遅れ「おおぞら」並で、総体乾物率は「おおぞら」並である。熟期は“中生の中”に属する。

(2) 耐倒伏性

「おおぞら」と同程度だが、折損は「おおぞら」より少ない。

(3) 発芽および初期生育

発芽期は「おおぞら」並で、初期生育は「おおぞら」並かやや劣る。

(4) 収量性および乾物特性

乾総重および推定TDN収量は「おおぞら」並である。乾雌穂重割合は「おおぞら」よりやや高い。

(5) 形態特性

稈長および着雌穂高は「おおぞら」よりやや低い。

(6) 耐病性

すす紋病抵抗性とごま葉枯病抵抗性は、いずれも「キタユタカ」および「おおぞら」より強い。

